

令和5年度施政方針

石垣市長 中山義隆



はじめに

令和4年度も新型コロナウイルス感染拡大による影響と、ロシアのウクライナ侵攻などの影響による燃料価格や飼料代などの物価高騰もあり、観光業や農林水産業など本市の地域経済は、大きな打撃を受けました。

本市は新型コロナウイルスへの対策として、市民の健康と暮らしを守るため、感染症対策と経済対策の両輪を同時に回してきました。感染症対策では、高齢者施設や障がい者施設等への巡回ワクチン接種や市民への集団ワクチン接種などを実施し、その結果、本市のワクチン接種の状況は、令和5年1月末時点で、4回目接種が約1万5000人、5回目接種が約9000人となっており、3回目接種に引き続きワクチン接種を必要とする多くの方々に接種いただける状況となっております。経済対策では、消費が落ち込んだ地元農水産物の消費拡大を促すため、おさしみクーポン券やお肉券のほか、パインアップルやさつまいも、冬瓜、パイナップル、ソデイカやヤイトハタ等を学

校給食の食材として取り入れるなど、新型コロナウイルス臨時交付金を活用し様々な経済対策を行ってまいりました。

また、燃料価格や飼料代などの物価高騰に対しては、同じく新型コロナウイルス臨時交付金を活用し、畜産農家や漁業経営者、バス・タクシー事業者、また福祉施設を運営する事業者など様々な業種の事業者に対し、ガソリン等に掛かる経費の一部を助成し支援してまいりました。また、様々な困難に直面した方々の暮らしを守るため、住民税非課税世帯等に対し10万円の臨時特別給付金や、電力・ガス・食料品等の価格高騰による家計への影響が大きい低所得世帯に対しては、3万円又は5万円の緊急支援給付金を支給してまいりました。

そうしたなか、新型コロナウイルスにつきましては、医療関係者のご尽力や市民の徹底したマスク着用などの感染症対策により、市内の感染状況も落ち着きをみせ、とうばらーま大会や石垣島まつり、石垣島マラソンなど各種イベントにおいてもコロナ禍以前に近い形

で開催することができました。また、市内には多くの観光客が見られるようになり、街に活気が戻ってきております。政府は先日、令和5年5月には新型コロナウイルスの感染症法上の扱いを「2類相当」から季節性インフルエンザと同じ「5類感染症」に移行する方針を決定しております。長期間に及んだ新型コロナウイルスとの闘いに、ようやく終わりが見えてきました。

本市の観光状況につきましては、夏場の観光シーズン到来以降、コロナ禍からの回復が徐々に見られ、令和4年12月の入域観光客数は、コロナ禍前の約9割、クルーズ船を除いた航空機のみで比べるとコロナ禍前を上回るまで回復しております。そして、コロナ禍でストップしていた海外クルーズ船の寄港が3月8日に再開し、5月までの海外クルーズ船の寄港予定回数は、2月15日時点で13回となっております。

また景気動向を示すとされる有効求人倍率については、令和5年1月時点で12か月連続して1倍を超え、県



クルーズ船歓迎セレモニー

や全国の水準を上回り、コロナ禍前の令和元年とほぼ同水準にまで戻っております。

スポーツ・文化活動については、令和4年度も多くの児童生徒が活躍した一年となりました。八重山高校ソフトテニス部の男女揃っての九州大会出場や同校空手部の全国大会出場、また八重山商工高校においては、沖縄県高校ロボット競技大会で三連覇を達成いたしました。中でも令和4年12月に開催された第50回マーチングバンド全国大会において、石垣第二中学校が最優秀賞を受賞しております。また、令和5年1月に開催された第6